

---

# それでも世界はまわるから

尻切レ蜻蛉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

それでも世界はまわるから

### 【Nコード】

N8374V

### 【作者名】

尻切レ蜻蛉

### 【あらすじ】

最初にそんなことを言い出したのは誰だったろう

最初にそんなことを言い出したのは誰だったろう。

気づいたら、俺の頭は鮮やかなレモンイエローに染まっていた。

「てか、ありえねえだろ！ふつー！！」

カラースプレーで髪染めるか！？　ぶつぶつ言いながら水道で髪を洗う俺もどうかと思うけれど。

水がレモンイエローに染まって、まるでグロテスクなレモンジュースだ。

「飲むなよ？」

「だー！アホか！？誰が飲むかよ！」

「モノ欲しそうに眺めてたくせに」

「お前いつペン落としてやるうか！？」

おい！　怒鳴りつけてやったのに、あいつは答えた様子もなくけりりと笑う。

「お前にはできないね。ザンネンでした」

「遅れてごめん」

日の光を思わせるような声にはっと気づく。

目の前にはいつの間にか、お手拭と珈琲が置いてあった。

「私も同じものを」

「久しぶりだな」

ようやくそう紡ぐと、視線の合った彼女にあいつの顔が重なる。

「そうね。あいつがいなくなって、もう五年も経つんだよ？」  
「……」

俺が彼女に会わなかった月日は、否応なく、あいつと別れたあの日に繋がる。

黒服の群れ。

たなびく煙。

嘘のように笑うあいつの顔。

そして。

泣きはらした彼女の顔。

「会ってくれないかと思ったわ」

「お前が来いって言ったんだろ」

「あいつが、兄さんが望んでるからよ」

差し出された小さな包み。

伸ばした手の先で、それは支えを失って二人の間に落ちる。  
小さな音。

机の上に零れたのは、シルバーのブレスレット。

あいつとお揃いで買って交換したんだ。

最初で最後の旅行だった、修学旅行で。

『次は指輪な』

『ばっか！どんだけ先の話だよ！』

忘れものだ。

あの日に残してきた約束。

俺の瞳から、知らず零れた涙が机を叩く。

「いいのよ、もう。あいつがいなくなたって、女の子に戻っていいの。兄さんもそう望んでるから」

ブレスレットを握りしめて、俺、いや私は泣いた。

彼が逝ってしまったことを、今、初めて理解したように。

(後書き)

【三題噺】 カラー Sprey、おてふき、忘れもの

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8374v/>

---

それでも世界はまわるから

2011年10月1日22時39分発行